



▲赤字のか所が4車線化を進めている舞鶴若狭自動車道の工事区間。完成することで丹波・丹後・若狭と京阪神都市圏の連携が強化され、車での移動がスムーズになります。



▲真倉トンネルと黒谷トンネルとの間に架かる真倉橋を施工している様子



▲伊佐津川橋を施工している様子（綾部市）

# 舞鶴若狭自動車道（舞鶴西IC）福知山IC）4車線化工事進む

## 平成32年度に完成予定



真倉橋を施工している様子

舞鶴若狭自動車道は、丹波・丹後・若狭地方と京阪神地方を結び、産業振興、文化交流、地域振興などに大きく貢献する高速自動車国道です。

現在、舞鶴若狭自動車道の福知山ICと敦賀JCT間は、一部を除き上下線1車線ずつの2車線道路ですが、舞鶴西ICと綾部PA間（4.7キロ）と綾部ICと福知山IC間（10.2キロ）での4車線化工事が平成32年度末を完成予定に進んでいます。この工事が完成すると、舞鶴西ICと吉川JCT間（約76キロ）の4車線が完了します。

舞鶴市内では真倉トンネル（約0.7キロ）の工事が進められ、平成28年7月にトンネルが貫通。11月18日には、多々見市長が現地を視察し、NEXCO西日本関西支社の村尾支社長から工事の進捗



▲貫通した真倉トンネルの内部（昨年11月18撮影）

### 舞鶴若狭自動車道の概要

中国自動車道吉川JCTから分岐し、兵庫県南東部、京都府北部、福井県南西部を経て北陸自動車道敦賀JCTに至る延長162キロの高速自動車国道。途中、春日ICで北近畿豊岡自動車道、綾部JCTで京都縦貫自動車道（綾部宮津道路、丹波綾部道路）と接続しています。

### 4車線化のメリット

- ① 丹波・丹後・若狭と京阪神都市圏の連携強化
 

日本海側の重要港湾である京都舞鶴港を拠点とした流通の高速性と定時性の向上が期待されます。また、府北部を訪れる観光客の目的地までの移動がスムーズになります。
- ② 快適で安全な走行
 

4車線化により交通量の増加にも対応できるため、交通が集中する時間帯でも快適に走行できます。また、上下車線の間で中央分離帯が設置されることで、対面通行区間が解消され、より安全に走行できるようになります。
- ③ 災害発生時の道路機能の強化
 

大規模地震や台風、大雨、洪水などの災害が発生した場合、支援物資の緊急輸送路としての役割を担います。また、冬季の豪雪時には、通行止めを解消し、除雪作業を効率的に行うことができます。安定した通行が確保できます。

状況などの説明を受けました。現在、トンネル内側の工事が完了。平成29年度には舗装工事などの仕上げ工事の発注を予定しています。市では、引き続き関係機関と連携し、4車線化事業の円滑な促進に取り組んでいきます。

《国・府事業推進課》